

妙智會

5月14日本部供養会  
本殿大講堂（ライブ配信）  
宮本法嗣先生ご指導Vol. 133  
2024. 5. 24  
1/2

5月14日の本部定例供養会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。今日はこの後、七面山の別当さんとそのお父様である、實相寺貫主の小松先生が来られます。小松先生は、以前開催された大日蓮展の責任者で、当時大導師さまに「頼むよ」とだけ伝え、詳細を話さずとも「わかった」と信頼をおかれていた方です。大導師さまの誕生月にお二人が揃ってお越しいただけることを、大導師さまも、喜んでいるでしょう。私も嬉しく思い、皆様と共に感謝の気持ちで迎えたいと思います。

現在の世の中は非常に混沌としています。政治や経済が不安定で、特に経済的な問題は皆さんにも影響を及ぼしているかもしれません。私が今一番心配しているのは、今年の因縁が悪化していることです。これは脅かしているわけではなく、現実として受け止めていただきたいと思います。

今日まで、皆さんが日本の状況をどう感じたかは分かりません。ですが、政治や経済の問題に対する危機感は薄れてしまいがちで、大きな天災がないと危機感を持ちにくいのが現実です。今年の正月早々に起きた出来事も、ほとんど忘れられてしまいました。

年間の因縁は後半に現れやすい傾向があります。前半で試され、後半に結果が出るのです。上半期にしっかり対応していないと、後半に大きな問題が起きる可能性があります。皆さんには、この話を受け止め、下半期に向けて備えていただきたいと思います。

病気や怪我、経済的な困難が自分に降りかかると、危機感が増すものです。今年は特にへそから下の部分に注意が必要です。また、今年の因縁は地面に関わるが多く、揺れ動かされる年。身体的

には足元の怪我や病気が増えるかもしれません。法の部分でもしっかり備え、健康に注意して過ごしてください。

先日若い方たちから伺ったお話で、私にとって非常にためになる内容がありました。現在の生活の中で朝夕のお経を上げることが難しいという現実です。女性も働いている人も多く、朝は時間が取れても夜は難しい、逆に夜はできても朝は起きられないという声が多くありました。妙智會では朝夕のおつとめとしてお経を上げることをお願いしていますが、現代の生活環境を考えると、なかなか実践できない方も多いのが現実です。昨年末から、どれだけの方がお経を上げているか調査したところ、40%の方しか上げていないことが分かり、非常に驚きました。

私自身、なぜこの現実にもっと早く気づけなかったのか、非常に反省しています。上げたくても上げられない環境があることを理解せず、40%という数字にただ失望してしまった自分が情けなく思います。しかし、これをきっかけに皆さんが直面している現実に寄り添い、改善していかなければならないと強く感じました。

だからといって、お経を上げることが軽視するわけではありません。皆さんができる範囲で、できるだけお経を上げていただきたいと願っています。お経を上げる、導きをすることは、自分自身のためであり、信仰の実践として非常に重要です。

皆さんと共に修行を続け、信仰を深めていきたいと思います。

どうか皆さんも、自分の生活の中でできる範囲でお経を上げ、信仰を実践してください。そして、お互いに支え合いながら、下半期を乗り越えていきましょう。皆さんの幸せと健康を心から願っています。いつもそばにいます。だから、会主さまと大導師さまの教えを信じて、修行してください。